

レタス・春どり（品種：^{ハルピー}春P）

山武農業事務所

1 地区名（集団名）

山武市睦岡地区（JA山武郡市睦岡支所園芸部葉物部会）

2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 9戸
- (2) 栽培面積 250a
- (3) 収穫量又は出荷量 7,400 ケース（7.5～9.5 kg／ケース）
- (4) 出荷先又は販売方法 JA山武郡市・市場出荷

3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬（成分回数）	1～3回	9回
化学肥料（窒素分量）	0kg/10a	12kg/10a

4 事例のあらまし

山武市睦岡地区のJA山武郡市睦岡支所園芸部葉物部会（以下、葉物部会）では、春レタスを「ちばエコ農産物」として生産販売しています。春レタスは、ハウスと露地のトンネル栽培で作られていますが、どちらも認証基準内での栽培が可能で、全員が継続してちばエコ栽培に取り組んでいます。春レタスは、栽培者や作付面積ともに年々増加しており、今後もハウレンソウとの輪作品目やスイカからの転換品目としての導入が見込まれます。

5 背景・動機

当葉物部会では、平成 21 年度から春レタス栽培者全員が「ちばエコ農産物」の認証を受け、安全・安心な農産物を生産販売する取り組みが始まりました。

ここ数年、新規に春レタスを栽培する生産者が増えているので、ちばエコ栽培のより一層の生産安定のため、現在栽培されている数品種をハウス栽培で比較調査しました。



レタスの定植



収穫期のレタス

6 栽培方法

(1) 土づくり

牛ふん堆肥を 1.5 t /10a 施用しています。葉物部会では、牛ふん堆肥のほか、鶏ふんなどを施用し、土づくりに努めています。

(2) 施肥

基肥に有機質肥料を用いることで、化学肥料の窒素分量をゼロとし、ちばエコ基準を達成しています。葉物部会では、生産者全員が同様な施肥を行っています。

(3) 病虫害防除

定植後のネキリムシ対策として、フォース粒剤を使用しています。生育期間中は病虫害の発生はみられず、薬剤散布は行っていません。春先の腐敗病やナモグリバエなどの発生時に薬剤散布する場合がありますが、例年、化学合成農薬の使用回数は少なく、ちばエコ基準を達成しています。

ア 栽培管理

作業名	実施年月日
前作収穫終了	平成 22 年 10 月 15 日
播種	11 月 20 日
定植	12 月 23 日
収穫開始	平成 23 年 3 月 9 日
収穫終了	3 月 21 日

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10a あたり)

使用銘柄 (N : P : K)	実施年月日	施用量	全N	化学N
牛ふん堆肥	平成 22 年 12 月 10 日	1.5t		
味良 1 号(6 : 8 : 4)	12 月 10 日	120kg	7.2kg	0kg
苦土重焼燐(0 : 35 : 0)	12 月 10 日	60kg		
合 計			7.2 kg	0 kg

(イ) 病虫害・雑草防除等

使用農薬	対象病虫害	実施年月日
フォース粒剤	ネキリムシ	平成 22 年 12 月 15 日

ウ 品種別の収量調査結果

品種	全重 (g)	調製重 (g)	調製率 (%)	球径 (cm)	球高 (cm)	階級別割合 (%)				
						2L	L	M	S	規格外
春P	732	353	48	15.6	12.7	25	45	10	10	10
S1795	666	253	38	12.1	13.4	0	20	15	15	50
スターレイ	698	305	44	14.1	11.0	10	45	5	5	35
カーチス	637	228	36	12.3	12.9	0	10	10	25	55

注) 調査は3月10日、連続した20株を調査した平均値を示す。

7 今後の展望等

春レタス栽培では、春先の気温上昇に伴い増えてくる病害虫に対する適期防除がポイントになりますが、ちばエコ基準は達成しやすく、栽培者や作付面積は年々増加しています。

本事例のハウス栽培の品種比較では、早生性及び収量性の高い「春P」が有望でしたが、トンネル栽培においても当地に合った品種選定が望まれます。

今後の課題として、面積増に伴う共同利用の包装機の新規導入や、契約販売などの販路拡大が検討されています。